

## 会議録

会議の名称	第4回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会
開催日時	令和7年11月13日（木曜日）午前9時30分から午前11時30分まで
開催場所	田無第二庁舎5階会議室
出席者	委員：小野部会長、小林委員、島崎委員、辻委員、中西委員、林委員  事務局：遠藤子ども若者部長、菱川子ども若者応援課長、福所児童青少年課長、宮田子ども若者応援課子ども若者計画係長、越川子ども若者応援課子ども若者計画係主任、須藤子ども若者応援課子ども若者計画係主任、高橋子ども若者応援課子ども若者計画係主事
議題	1 議題 (1) 子ども・若者ワイワイプラン令和7年度事業の評価・検証の検討について (2) 子ども・若者ワイワイプランの「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証方法についての中間報告書（案） 2 その他
会議資料の名称	資料1 第3期子ども・若者ワイワイプラン令和7年度事業「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証について 資料2 子ども・若者ワイワイプラン基本方針1及び2に基づく重点的な取組の一覧【令和7年度事業予定】 資料3 子どもの声を聞く方法 資料4 （仮）西東京市若者ミーティング企画案 資料5 令和8年度専門部会スケジュール（案） 資料6 子ども・若者の権利の観点からの評価・検証方法についての中間報告書（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><b>1 議題</b> <b>(1)子ども・若者ワイワイプラン令和7年度事業の評価・検証の検討について</b></p> <p>○小野部会長： 今回からは、来年度の「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証に向けて、ワイワイトーク、出張ワイワイトーク、アンケートなどの実施方法、若者ミーティングについて議論する。 事務局から説明願う。</p> <p>○事務局： 資料1、資料2、資料3、資料4、資料5に沿って説明</p>	

○小野部会長：

本日は、資料1の「重点的な取組」から来年度に評価・検証する事業選定の議論をした後に、子ども及び若者から評価を受ける方法について議論する。

評価・検証する事業は、他の自治体でも重点的な取組から選んでいるのか伺いたい。

○林委員：

中野区では、計画で整理されている施策や事業を対象に選んでいない。子どもの居場所や子どもの権利の普及促進など大枠のテーマを設定している。

○小野部会長：

計画の重点的な取組の中から選ぶのではなく、テーマを決めているのか。

○林委員：

区長からの諮問という形で居場所、相談、意見表明など、評価・検証するテーマが示される。

○小野部会長：

重点的な取組から一つ、または二つ選んで評価・検証するのはテーマが大きく議論が難しいため、居場所など何かしらの焦点を当てた方がよいと思う。今回は重点的な取組とするが、難しければ子どもの居場所などキーワードで焦点を絞るのはどうか。

○島崎委員：

資料1の重点的な取組の①、②は、全ての子ども・若者に関わるが、③以降は、「やってみよう」、「参加したい」などの主体的な子どもを対象に限られてしまうと思う。実際に自分が経験していることなら実感が湧きやすいと思うが、テーマが広いと難しい部分もあると思う。

○辻委員：

重点的な取組の⑤も、対象が関わりのある子どもに絞られてしまうと思う。

○小野部会長：

相談したことがない子どもについては、相談したいと思った時にどのような相談支援体制を要望するかという視点で子どもが評価できるとよいと思うが、相談したことがないと、どのような支援か分からないかもしれない。

○林委員：

市の相談事業の一つであるほっとルームは認知度が高いと思うがどうか。

○小野部会長：

小学6年生に出張授業を行っているため、認知度は高いと思う。

○林委員：

相談したことがなかったとしても、相談できる場所をどのように知ってもらうかなど

の周知の仕組みについて評価できると思う。

○辻委員：

毎年、アンケートを実施して、ほっとルームの認知度を測っている。

○林委員：

相談できる場所を考えた時、ほっとルーム以外にも学校や児童館など様々な場所が挙げられると思う。具体的な事業に絞るのではなく、テーマで考えた方が子ども・若者も評価しやすいと思う。

○小野部会長：

重点的な取組の中の相談の部分というやり方でもよい。

○林委員：

重点的な取組を二つ選定するというのは、「子どもと若者の各々二つ選ぶのか」又は「子どもと若者を合わせて二つ選ぶのか」を伺いたい。

○事務局：

子どもと若者を合わせて二つの重点的な取組を想定している。

○小野部会長：

重点的な取組を二つ選定することは難しいと感じる。

二つのうち一つをアンケート形式とする方法もあると思うが、二つをワイワイトークで検証するのは難しいと思う。

事務局としては、子どもと若者で共通のテーマがあったほうがよろしいか。

○事務局：

共通のテーマの方がよいと考えている。

○小野部会長：

重点的な取組から一つ選んでも、個々の取組は多岐にわたっており、様々な担当課の事業が関わってくると思う。「担当課の一事業をテーマにするのか」又は、「広いテーマで考えるのか」を伺いたい。

○事務局：

担当課の一事業ではなく、重点的な取組としている全体的なテーマを評価していただきたいと考えている。

○小野部会長：

一つの重点的な取組を取り上げても、事業内容は多岐にわたっており、関係する事業全てを評価・検証するのは難しいと思う。関係する事業のうち、いくつかの事業を選んで評価・検証しても構わないか。

○事務局：

全体として評価・検証していただきたいと考えていたが、難しいようであればピックアップしていただいて構わない。

○辻委員：

重点的な取組に基づく各事業の担当課評価をまとめた全体を重点的な取組の評価・検証対象とするのが事務局の想定か。

○事務局：

そのような想定である。

○小野部会長：

事務局が想定した方法では事業内容が多岐にわたっている。全体を理解するのは、若者ならできるとは思えないが、子どもには難しいと思う。

中野区のように「子どもの居場所」などのテーマで行ったほうがよいのではないか。

○事務局：

ワイワイトークでは公民館や居場所などを取り上げたが、ホームページや市報などで周知していても子どもに情報が伝わっておらず、情報発信が不足しているという話になりかねない。

○小野部会長：

子どもの参加がなければ子どもの意見表明は実現しないため、重点的な取組に重なりがあるのは仕方ない。重点的な取組②、③の中で共通するものを決めて評価・検証するのはどうか。

○小林委員：

重点的な取組④と⑦はどうか。

子どもに様々な場所に参加してもらったほうが評価しやすいと思う。子ども・若者の参加の推進に重点を置いて、評価・検証するやり方もあるのではないか。

○小野部会長：

評価・検証する重点的な取組は二つではなく、一つでよいと思う。

重点的な取組④、⑦に関しても、地域行事等の活性化はまちづくりにつながるため、重なっていると思う。

○小林委員：

重点的な取組③も重なっていると思う。

○小野部会長：

重点的な取組③は、まちづくりというよりも公共施設の事業運営だと思う。公共施設はワイワイトークで扱ったテーマであるため、評価・検証しやすいかもしれない。

大学生がファシリテートするという観点ではどの重点的な取組がよいか伺いたい。

○中西委員：

学生が参加していることもあるので、地域行事の活性化はよいと思う。

また、ほっとルームやヤングケアラーに関しても、学生が市と協力したことがあるので、ファシリテートもやりやすいと思う。

○小野部会長：

高校生以上の年代は地域行事にかかわりがないのではないかと感じていたので、意外である。高校生以上になると、西東京市に住んではないが市内の学校に通っている方が多くなると思う。意見を聞いても、市がどの事業を行っているのかを知らず、実施しているものでも、やってほしいという意見になりかねないので、西東京市を知ることから始める必要がある。

○林委員：

他の自治体は、2年や3年ごとにテーマを決めて評価・検証しているが、毎年テーマを設定して評価・検証するのか。ワイワイトークは短期集中型なので、子どもがどこまで本当に考えられるのかという課題もある。一定期間をおいてから、再度同じメンバーで評価するのもよいのではないか。

○小野部会長：

評価・検証する事業の選定については、次回の専門部会で再度議論したい。

続いて、資料3の子どもの評価を受ける方法について、意見等あるか。

○小林委員：

ワークショップ形式はよいと思う。アンケート形式は一人で黙々で行うため、意見が出にくいと思う。

○小野部会長：

それぞれ長所と短所があると思う。ワークショップ形式は、イベントに参加できる子どもからしか意見を聞くことができないが、アンケート形式であれば、より多くの子どもから意見を聞くことができる。

○辻委員：

ワイワイトークに参加している子どもは、自分たちが市の取組を評価するという意識をどれくらい持っているのか。

○小野部会長：

ワイワイトークの参加者募集チラシに記載しており、ワイワイトーク当日も説明していたので意識はあったと思う。

昨年度に比べて参加者が少なかったのは、周知が遅かったこともあるが、「評価」という言葉が難しく、何を行うワークショップなのか子どもに伝わらなかったかもしれない。

○島崎委員：

アンケート形式はよいと思う。子どもの権利について知っている子どもはどのくらいいるのか気になる。

アンケート形式をするのであれば、「子どもの日」がある5月の市報の1面に、子どもの権利を知るための二次元コードなどを掲載し、子どもの権利に関する周知をしたうえでアンケートを取るのはいかがでしょうか。全ての家庭に市報は配達されるため、1面に掲載されていれば目に触れると思う。

○小野部会長：

若者委員として、市報は見るか。

○小林委員：

少なくとも、子どもの時は読んでいた記憶はない。

○島崎委員：

若者は読んでいると思うがどうか。

○小林委員：

私は読んでいるが、周りの大学生が読んでいるかは不明である。

○辻委員：

郵便受けにあれば、市報の1面は目に留まると思う。

○島崎委員：

市報の1面は、写真がカラフルで目を引いた覚えがある。市には子ども条例があることを、毎年周知することが必要であると思う。

○小林委員：

学校で給食の時に、子どもの権利に関する放送を行うのはいかがでしょうか。

○小野部会長：

可能であれば小中学校で10分ほど時間をいただいて、アンケートに協力いただけるだけでも、多くの子どもから意見を聞けると思う。ワイワイトークに加えて、アンケートを実施するという方向性はどうか。

○辻委員：

学校給食時に、市が作成した原稿をいただいて、児童・生徒が放送するのはよいと思う。子どもの口から、子どもの権利に関することを発言してくれるのはよいと思う。

○中西委員：

出張ほっとルームの案内を学校で放送していたと思う。

○小野部会長：

出張ほっとルームについて伺いたい。

○事務局：

ほっとルームは通常は住吉会館にあるが、子ども条例の出張授業をした際にその学校で相談できるようにしている。給食時の放送で、出張ほっとルームを開催していることをアナウンスすると、放送を聞いて子ども数人が相談に来てくれている。

○小野部会長：

市内の全小中学校で実施しているのか。

○事務局：

出張授業は小学校6年生を対象にしているため、小学校で実施している。また、児童館でも実施している。

○小野部会長：

いつから実施しているのか。

○事務局：

今年度から実施している。出張ほっとルームだけの開催も検討しているが、日程調整が難しく、現段階では出張授業と一緒に実施している。

○小野部会長：

資料3の子どもの声を聞く方法として、インタビュー形式やグループワーク形式などの案もあるが、こちらはどうか。

評価・検証するテーマによって子どもの声を聞く方法は異なってくると思うので、テーマを決めてから方法を検討した方がよいかもしい。

他の自治体では、出張して子どもの意見を聞くことは行っているか。

○林委員：

ヒアリングを行っている。子どもの居場所というテーマでは、小中学校、児童館、保育園、不登校の子どもの居場所などへ、子どもの権利委員が手分けして訪問している。

○小野部会：

子どもの権利委員が訪問しているのか。

○林委員：

アウトリーチしないと子どもの意見を聞くことはできない。子どもの自主的参加のワークショップ形式だけでは不十分であり、こちらから出向く必要がある。特に困難を抱える子どもには、私たちが出向かないと意見を聞くことはできないと思う。

○小野部会長：

もしアンケートを取るならば、不登校の子どもの居場所や児童養護施設に送付するこ

とも考えたい。

未就学児は集めることが難しいと思うので、市内の保育園、幼稚園を1つずつ選んで訪問するのもよいと思う。

○林委員：

子どもの声を聞く方法は2種類あり、一つは、ワークショップ形式で意見を伝えたい意欲的な子どもが参加し、二つ目はインタビュー形式やアンケート形式で子どもに意見を聞きに行くことで、参加しない子どもの意見も聞くことができる。

ワイワイトークは一時的なイベントのように感じているが、常設の子ども会議のようなものは組織するのか。

○事務局：

広く子どもから意見を聞きたいと考えているため、現時点では常設の子ども会議のようなものは想定していない。

○林委員：

ワークショップ形式を常設の子ども会議にするのであれば、資料3の案2、案3、案4は、いろいろな子どもの声を聞くために、委員が出向いて意見を聞く形になり、それで十分フォローできると思う。子どもが意見を伝えたい時に、いつでも伝えることができるか、市が出張した時にしか伝えることができないのでは、差があると感じる。

○小野部会長：

ワークショップ形式は開催日程が決まっているため、意見を伝えたくても、日程の都合で参加できない可能性がある。例年のように2、3日行って終了ではなく、一度開催した後に、数か月後に再度同じメンバーで実施するなど、常設型に近い方法で実施するのもよいと思う。

○事務局：

令和6年度の子ども会議では、フィードバックを子どもに送付し、フィードバックを読んだ感想を10月の子ども条例市民講座で発表する機会を設けた。

○小野部会長：

令和6年度の事例は、当初から決まっていたものではなく、子ども会議の期間中に呼びかけたと記憶している。募集の段階から常設型に近い形として、夏に2～3回、10～11月に1回、開催することもよいと思う。

○林委員：

資料4の若者ミーティングも、若者からの評価を受けて担当課で検討されたものを、秋頃に対面でフィードバックできるとよいと思う。伝えた評価が市で検討されていることを実感してくれると思う。実現が難しい場合は理由も添えてフィードバックを返せるとよい。

豊島区の子ども会議は西東京市に似たかたちで運営されており、夏休みに子ども会議を開催し、8月、9月に市で検討して、10月にフィードバックしている。

今年度開催したワイワイトークでも、副市長や教育長が子どもの意見に対して真摯に答えていたのでよかったが、その場限りになり、自分の意見が反映されて本当に事業化されたのか分からないままになってしまう。

○小野部会長：

秋頃にワイワイトークを開催するならば、公開型にするのはどうか。夏休みに開催するワイワイトークに参加できなかった子どもでも、見に来ることができるようにすることで、親子がイベントの存在に気付き、次回のワイワイトークに参加してくれるかもしれない。

○辻委員：

若者ミーティングのフィードバックは送付するのか。

○小野部会長：

今年度のワイワイトーク参加者にも、フィードバックを送付した。

○辻委員：

ワイワイトークに限らず、若者ミーティングも送付ではなく、対面でフィードバックした方がよいと思う。

○林委員：

中野区では、午前子ども会議を行い、午後若者会議を開催している。子ども会議の進行は若者会議のメンバーが一緒に行い、ハイブリットに運営している。子どもと若者が同じテーマであると、担当課も答えやすいと思う。

○小野部会長：

フィードバックの際にそうしているのか。

○林委員：

そうである。

○小野部会長：

公開型であるのか。また大人も来てよいのか。

○林委員：

公開型である。中野区役所1階のオープンスペースで開催しているため、誰でも聞くことができる。

○小野部会長：

その方法もよいと思う。

子どもの評価を受ける方法として、ワークショップ形式で行うことでよろしいか。また、10月、11月頃にフィードバックの機会を設けることに異議はないか。

○各委員：

異議なし。

○小野部会長：

フィードバックは公開型で行い、市内の大人・子どもに呼びかけ、若者へのフィードバックも同日程で行うことで事務局には検討いただきたい。

また、子どもの権利についてアンケートを実施したい。相談に関することは、みんなで話すよりも個人の方が意見を言いやすいと思うので、アンケート形式で行いたい。

加えて、評価するテーマによって訪問する施設は異なるが、不登校の子どもの居場所や、保育園、児童館で出張ワイワイトークのようなグループワーク形式のものを実施できるとよい。

次に、資料4の若者の評価を受ける方法について意見等はあるか。

○小林委員：

高校生と大学生の視点は違うと思う。高校生に比べ、大学生は時間的余裕があるため参加しやすいと思うが、メンバーが大学生に偏らないようにしてほしい。

○小野部会長：

高校生への広報はどのようにしたらよいか。

若者ミーティングの全ての日程に参加できる高校生は少ないと思う。高校生、大学生、若者が一同に参加するとなると、社会人は平日夜の時間帯はよいと思うが、高校生は塾や部活などがあり、難しいと思う。

○林委員：

塾に通えるのであれば、夜の時間帯も参加可能だと思う。

○小野部会長：

午後6時から午後8時頃に開催であると、社会人は参加が難しいと思う。午後7時から午後9時頃に開催もよいと思うが、帰る時間が遅くなってしまう。

○事務局：

中高生特化型児童館の準備会は、平日の夜間に開催しており、中高生、大学生に参加いただいているので、若者ミーティングも平日夜間の開催を考えている。

○林委員：

資料2に記載されている若者ミーティングの説明は、「若手職員とともに若者に求められる市の取組を検討する」とあるが、市の若手職員が関わるのか。

○事務局：

若者ミーティングは令和6年度から企画政策課所管で実施しており、市民の方にも参加いただいているが、参加者の大半が市職員であるため、市内に在住・在勤・在学の方を対象に考えている。

- 小野部会長：  
現在実施している若者ミーティングとは、別のものという認識でよろしいか。
- 事務局：  
若者ミーティングの所管が、子ども若者部に移管されるので、新しい形で構築したいと考えている。
- 林委員：  
市の若手職員と共に西東京市の未来を考えようという機会はよいと思うし、大学生も参加しやすいと思う。高校生にとっても、若者ミーティングに参加して様々な経験をすることで、大学入試に有利になることもある。また、市の職員不足が問題になっている中、市の魅力を伝える場や、市の課題を高校生、大学生と話し合う場として位置付けるのはよいと思う。
- 小野部会長：  
事前学習の際に、市の若手職員から説明があってもよいと思う。
- 林委員：  
実際に働いている公務員と話せるというメリットがあると、参加しやすいのではないかと思う。
- 事務局：  
企画政策課が開催している若者ミーティングでも「公務員と話ができて新鮮だった」という声をいただいた。
- 小林委員：  
今の就職市場を見ると、公務員の就職活動は民間企業に比べて遅く、公務員が就職先の候補に入っていない可能性もあると思う。
- 小野部会長：  
広報のチラシが重要である。目に留まるデザインにできるとよいと思う。メンバー募集が3月ならば、2月までに参加者募集のチラシが完成している必要がある。  
次回の専門部会で引き続き、議論したい。
- 辻委員：  
市の若手職員が司会やファシリテーターとして参加するのはどうか。
- 小野部会長：  
子ども若者部の職員がファシリテートする予定であるか。
- 事務局：  
そのとおりである。

○林委員：

若者へのフィードバックを行うことを考えると、市の職員がいる場で、市の取組への反対意見は言いにくいと思うので、市の職員を入れるとしても、バランスを考える必要があると思う。

○小林委員：

若者ミーティングに参加するうえで、任期の制限はあるか。

○事務局：

任期の制限は設けない予定である。

○小野部会長：

今回は試行実施であるため、任期に関しては、若者会議のように本格的に実施する際にまた議論したいと思う。

## (2) 子ども・若者ワイワイプランの「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証方法についての中間報告書（案）

事務局から資料6に沿って説明

○小野部会長：

何か意見等はあるか。

○林委員：

中間報告書案を1月の子ども・若者審議会に提出するという認識でよろしいか。

○小野部会長：

1月の審議会を確認後、庁内の子ども・若者施策推進本部へ共有される流れである。

○林委員：

P3「広報・周知の観点から」の「学校の授業で子どもの権利を学ぶ機会や子どもの意見表明を取り扱えると良いが、現状の教育課程に追加する余地はほとんどなく、新たな授業として追加することは難しいのが現状である。」はこれでよろしいか。

○辻委員：

三つ目に「教育委員会に来年度からの実施を依頼している」とあるので、四つ目の記載は削除でよいと思う。

○小野部会長：

「広報・周知の観点から」の四つ目は削除いただきたい。

○中西委員：

P4「子どもへの影響や効果を数値的に見る方法としては、子どもの精神疾患や非行

の割合など、事業によっては統計を使用していくことも可能なのではないか。」は、「子どもの精神疾患や非行の割合」を用いている理由を伺いたい。

○事務局：

前回の専門部会で発言があったため、記載している。

○中西委員：

ネガティブなイメージを連想させるため修正いただけるとよい。

○小野部会長：

「国や都の統計等を使用していくことも可能なのではないか」に修正いただきたい。

P3の「子どもの最善の利益の観点から」の一つ目は、文章が長いように思うが、分けた方がよろしいか。

○各委員：

読みにくいとは思わない。

○林委員：

P2「(2)子どもの評価」には、ワイワイトークのみが記載されているが、大学生がファシリテートした効果は大きかったので、「大学生がファシリテートしたことで、子どもが話しやすい雰囲気できた」という旨を記載したほうがよいと思う。

○小野部会長：

「出張ワイワイトーク」は、第三者が読んでも理解できない。「児童館・児童センターに出向いて、出張ワイワイトークを実施した」という記載も追記いただきたい。

P4「4今後の検討内容について」の「子どもの権利の観点」からの評価・検証の組織体制については、記載のとおりでよろしいか。

○各委員：

異議なし。

## 2 その他

○事務局：

次回の専門部会は、12月25日を予定している。

○小野部会長：

令和7年度第4回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会を閉会する。

以上